



平成 23 年 4 月 20 日

各 位

上 場 会 社 名 株式会社プロルート丸光
 代 表 者 代表取締役社長 前田 佳央
 (コード番号 8256)
 問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 原田 一美
 (TEL 06-6262-0303)

業績予想並びに配当予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成 23 年 3 月期（平成 22 年 3 月 21 日～平成 23 年 3 月 20 日）におきまして下記の通り特別損失を計上するとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成 23 年 1 月 28 日に公表した業績予想及び平成 22 年 10 月 21 日に公表した配当予想を修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 平成 23 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 22 年 3 月 21 日～平成 23 年 3 月 20 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	24,230	△390	△560	△400	△22.36
今回修正予想(B)	23,841	△568	△744	△1,208	△67.54
増減額(B-A)	△389	△178	△184	△808	
増減率(%)	△1.6%	—	—	—	
(ご参考)前年実績 (平成 22 年 3 月期)	26,644	259	96	164	9.10

(2) 平成 23 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 22 年 3 月 21 日～平成 23 年 3 月 20 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	22,960	△25	△185	0	0.00
今回修正予想(B)	22,528	△233	△400	△1,081	△60.44
増減額(B-A)	△432	△208	△215	△1,081	
増減率(%)	△1.9%	—	—	—	
(ご参考)前年実績 (平成 22 年 3 月期)	25,559	278	118	206	11.44

(3) 修正の理由

<連結業績>

売上高は、前回予想に対し 389 百万円減少する見込みであります。これは 2 月度、3 月度において、消費の一段の低迷と東日本大震災の影響により、大手顧客への売上減少や当社東京店、および関東地区にて小売展開している連結子会社サンマールの売上減少が主な理由であります。

営業利益は 178 百万円減少、経常利益は 184 百万円減少する見込みであります。売上高の下方修正に伴う粗利益の減少が主な理由であります。

当期純利益は、808 百万円減少する見込みであります。これは、上記の各収益段階での減少に加え、繰延税

金資産 462 百万円の取り崩し、および、当初見込んでいた東京店差入保証金返還の引当金戻入益 125 百万円の交渉延長による繰り越し、また投資有価証券評価損 8 百万円の計上等、前回予想時には想定していなかった減少が主な理由であります。

なお、連結子会社グローバルルートにおいて発生した売掛金回収懸念により営業損失 269 百万円の計上を発表いたしましたが、回収懸念先から事業の一部譲り受け等の結果、同子会社の当期純損失は 251 百万円となる見込みであります。

< 個別業績 >

個別業績の修正理由につきましては、連結において記載した理由と概ね同様であります。連結子会社であります株式会社サンマールの子会社株式評価損 239 百万円を親会社である当社において特別損失計上する見込みであります。なお、連結におきまして当該計上は相殺されるため連結業績に影響は致しません。

(4) 次期の見通し

次期につきましては、震災の影響等により、経営環境は先行き不透明感が増すものと予測されます。しかしながら、当社事業である「前売卸売業」は本来、適品を適時に適価で提供し、こうした厳しい環境であるほど、小売業のお役に立てるものと考えます。創業 111 年目となる次期は、以下に注力してまいります。

東日本地区に対しては、顧客訪問活動を強化し、特に被災地区の小売店様には商品、情報、物流等、多面的な支援を継続してまいります。西日本地区に対しては、顧客単位での販売担当の設置や顧客開拓担当を増員し販売強化を図ります。

商品展開においては、「アラフォー」世代に向けた商品強化と「ヤング」向け商品の見直しを推し進めてまいります。セット事業においては、単品提案からよりトータルコーディネート提案の拡充を図り、好評のアウトレット事業については拡大強化を図ってまいります。

また、経営資源をより一層見直し、商品調達、販売面の機能分化を明確にした組織再編を実施するとともに、営業支援推進の新規部門を創設し、事業創出や物流改革に着手して事業効率向上を図ってまいります。

連結子会社サンマールにおいては、メンズのトラッドショップ「ケントハウス」に資源集中し、調達ルートの見直し等を図りながら認知度を上げ、飛躍の足がかりを築いてまいります。

また、輸入代行業務を主体とする連結子会社グローバルルートは、設立 2 年目を迎え、海外からの直輸入商品を大幅に増加し、価格面でのメリット強化を図ると共に、期首の事業譲渡資産を有効に活用し拡販を図ってまいります。

当社グループ全体において、次期はその結び付きを強化し、付加価値創出を図ると共に、グループをあげて徹底したコスト削減を図ってまいります。

次期の業績予想につきましては平成 23 年 5 月 6 日に発表する予定であります。

2. 配当予想の修正について

(1) 平成23年3月期期末配当予想の修正

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (平成22年10月21日発表)	—	0.00	—	5.00	5.00
今回修正予想	—	—	—	3.00	3.00
当期実績	—	0.00	—		
前期(平成22年3月期)実績	—	0.00	—	10.00	10.00

(2) 修正の理由

当社は、株主への継続的利益還元を重要な経営課題の一つと考え、安定配当を行うことを基本方針としております。

当社といたしましては、1株当たりの期末配当は5円を予定しておりましたが、今回の業績予想の修正等を総合的に勘案した結果、1株当たり3円に修正いたします。

3. 親会社である当社における特別損失の計上について

当会計期間におきまして、連結子会社であります株式会社サンマールの子会社株式評価損失を計上する必要が生じたので、お知らせいたします。

<特別損失の計上>

(1) 特別損失の内容

平成23年3月期 子会社株式評価損 239百万円

(2) 計上に至った経緯

株式会社サンマールは、前期および当期において不採算店の撤退を続けており、次期においてもその継続を予定し、1株当たりの純資産額下落率が50%を超えることが予測されるため、株式評価損を計上するに至りました。

以 上